

# 双葉西小学校 学校関係者評価書

平成30年3月7日(水)

(双葉西小学校) 学校運営協議会作成

第4回 学校運営協議会(学校関係者評価委員会)

実施日:平成30年3月2日(金)午後3時~

会場:多目的室

参加者:(学校運営協議会委員及び地域支援会議代表者)

\*○印→学校運営協議会委員 その他は地域支援会議代表

小田切千尋・増坪愛子・山田健一郎・花田弘樹・山下千代子・前村はぎ映

石原茂雄・豊田泰長・山本真由美・小林昭徳・坂本公彦指導監

(学校側)

一瀬明仁(校長)・長田理(教頭)・小林克至(教務主任)

山本悦子(CSアドバイザー)・坂本仁子(研究主任)

## I 学校側から提案された内容

- ・平成29年度自己評価
- ・平成29年度教職員自己評価集計結果
- ・平成29年度児童用アンケート集計結果
- ・平成29年度保護者用アンケート集計結果

## II 協議された主な内容

- ・教職員自己評価や児童及び保護者アンケートの結果と課題について
- ・自己評価書が本校の実態を踏まえ、改善策が示されているかについて
- ・アンケート結果を含めた本校の課題に、学校・保護者・応援団を含む地域がその課題にどう取り組むかについて

## <学校関係者評価書>

### I 全体評価

教職員自己評価・児童・保護者アンケートの結果から、学校の教育目標・経営方針を教職員が十分意識して教育活動を展開していることが確かめられた。

#### ○教職員自己評価から

肯定的回答の内、100%が57項目中31項目、90%以上が26項目で、全項目、肯定的な評価であった。学校教育を全体的な視点で見た時、本校職員の職務への高い意識がうかがえる。コミュニティー・スクールに関する項目においても、100%の回答が得られた。本年度は大きな異動がなく、安定した学校体制のもと、教職員が自信を持って児童の指導や学級学年経営、学校応援団の方々と授業を紡ぐ上での、協力体制作り等に取り組んできたことの現れであると捉えられる。引き続き、学校と地域がより一層連携を継続していきたい。

#### ○児童アンケートから

肯定的な回答の内、100%の項目が27項目中1項目、90%以上の項目が17項目で全体の約67%である。80%の項目を入れると約85%の児童が各項目内容を肯定しており、大部分の児童が学校生活を中心とした自分の生活や活動などに満足している様子がわかる。また、コミュニティー・スクールとしての視点では、地域の方々と紡ぐ授業に有用感を感じている児童が99%に上る等、コミュニティー・スクールとしての成果が定着していること

がわかる。

反面、読書への取り組みにおいて課題がみられる。また、「授業中質問しますか」の項目が80%を切っていること、困ったことを相談できない児童が10%弱いるなど、また、「授業中質問しますか」の項目が80%を切っていること、困ったことを相談できない児童が10%弱いるなど、数値は低いが決して、これらの課題は見過ごすことなく意識を高く持ち、それらの課題の改善に対応していきたい。

○保護者アンケートから

26項目中9項目が90%、80～90%の項目が10項目で全体の約73%に上った。このことから、7割ほどの保護者が、児童が充実した学校生活を送っているという肯定的評価をしていることがわかる。

昨年80%以下の項目であったが今年度は80%以上になった項目は

Q21 将来の夢を持っているか……………80.7% (H28+8.3%)

Q25 外遊びの奨励など健康教育に取り組んで入るか…82.5% (H28+9.8%)

・肯定的な回答が80%を超えなかった項目を挙げてみる (H28は上回っている)。

Q13 自主学習をしているか……………54.3% (H28+2.2%)

Q14 困ったときの相談相手がいるか (友達) ……67.4% (H28+2.8%)

Q15 困ったときの相談相手がいるか (先生) ……72.3% (H28+2.3%)

Q26 ショートタイム等言語活動への取り組み……………69.9% (H28+6.4%)

## II 特徴

・教職員が日頃から高い課題意識を持って教育活動に努めており、学校教育目標に基づいた適切な学校運営がなされている。

・学校長のリーダーシップのもと、教職員同士の親和性が高く保たれ、質の高い教育活動が継続的に行われている。

・地域と学校が良好な関係を継続的に築いてきており、コミュニティー・スクールとして「地域とともにある学校」の安定期に入っている。

## III 今後の課題として意識されたこと

○「学校が楽しいか」の質問では90%以上の児童が楽しいと答えているが、そうではないと答えている児童が数名いることを留意し、その原因を探り指導していく必要がある。

○いじめについては、早期発見・早期対応、いじめを生み出さない学級経営など教職員一丸となり、生徒指導主任を中心に再度確認をしていく必要がある。

○本校は、学校側が、様々な情報を一方的な発信しておらず、学校運営協議会等の場面で、意見を吸い上げる機会を常に意識している。このよい連携関係を今後も継続していきたい。

○家庭学習や家読の奨励については、あくまでも主体は家庭なので、なかなか具体的は方策を考えることは難しい。保護者が自ら率先垂範して学習や読書をすることや、子どもがやる気になる環境作りをしていく必要がある。

○地域と学校・保護者との連携については、学校運営協議会とPTA常任委員会の共同開催や土日等の休日を活用した応援団活動を推進するなどの具体的な方策を進める必要がある。

○子どもの学習支援（外国語教育も含め）をしてくれる地域人材の募集は、根気強く募集をかけ続けていけばよい。また、外国語学習の児童補助をする人材等については、甲斐市国際交流協会等の諸機関を活用することも考えていく。

\*特記事項なし

記載責任者（双葉西小学校 学校運営協議会々長）氏名：小田切千尋